

2021 年 11 月 28 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒92 番（聖歌 123 番）

『恵みの御神は』

聖書⇒フィリピの信徒への手紙 2:6~11 節（MT 姉）

『キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。』

礼拝讃美歌⇒98 番（旧 187 番）（MT 姉）

『馬槽の中に』

聖書⇒詩編 130:5~8:章（OH 兄）

『わたしは主に望みをおき／わたしの魂は望みをおき／御言葉を待ち望みます。
わたしの魂は主を待ち望みます／見張りが朝を待つにもまして／見張りが朝を待つにもまして。
イスラエルよ、主を待ち望め。慈しみは主のもとに／豊かな贖いも主のもとに。
主は、イスラエルを／すべての罪から贖ってくださる。』

讃美歌⇒98 番（OH 兄）

『久しく待ちいにし』

聖書⇒ルカによる福音書 23:32~34、39~43:節（NH 兄）

『ほかに、二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。[そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。』

十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」すると、我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。』

《パン裂き》

聖書⇒マタイによる福音書 26:26-29:節 (KH 兄)

『一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。言うておくが、わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。』

礼拝讃美歌⇒148 番 (KH 兄)

『主の御旨により』

《建徳》

聖書⇒ローマの信徒への手紙 12:16:節 (KH 兄)

『互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。』

聖書⇒マルコによる福音書 2:13~17:節

『イエスは、再び湖のほとりに出て行かれた。群衆が皆そばに集まって来たので、イエスは教えられた。そして通りがかりに、アルファイの子レビが収税所に座っているのを見かけて、「わたしに従いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った。イエスがレビの家で食事の席に着いておられたときのことである。多くの徴税人や罪人もイエスや弟子たちと同席していた。実に大勢の人がいて、イエスに従っていたのである。ファリサイ派の律法学者は、イエスが罪人や徴税人と一緒に食事をされるのを見て、弟子たちに、「どうして彼は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」と言った。イエスはこれ聞いて言われた。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。』

聖書⇒ルカによる福音書 21:37~38:節

『それからイエスは、日中は神殿の境内で教え、夜は出て行って「オリーブ畑」と呼ばれる山で過ごされた。民衆は皆、話を聞こうとして、神殿の境内にいるイエスのもとに朝早くから集まって来た。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 10:13 節 (MS 姉)

『あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。』

《建徳要旨》

- ① **ローマ 12 章 16 節**：パウロはキリストの謙遜さを思いつつ、**高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません、**と勧めました。身分の低い人々とは、どんな人だったのでしょうか。**マルコ 2 章 13～17 節**：レビ＝マタイという徴税人もその一人でした。喜んだレビは仲間を自宅に招き、イエスと一緒に食事をしました。すると、ファリサイ派は、「どうしてこんな連中と一緒に食事をするのか」と非難しました。イエスが身分の低い、賤しい職業の者の友となっていたからです。イエスは、「狐には穴があり、空の鳥には巢がある。だが、人の子には枕する所もない」と言われ、家のないホームレスと同じ低さにまで身を屈められたのです。もうすぐクリスマスですが、誕生される時も、人の泊まる宿屋ではなく、家畜小屋でした。礼拝讃美歌 98 番 2 節：この人を見よ。（K・H）
- ② **I コリント 10 章 13 節**：神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような**試練に遭わせることはな**さらず、**試練と共に…逃れる道をも備えてくださいます。**パウロはコリント教会に警告と訓戒と共に、この慰めと励ましを述べている。「試練」の語には「誘惑」の意味が含まれていると言う。「神はアブラハムを試された」（創世記 22 章 1 節）。厳しい試練に耐え、逃れる道を備えられ、祝福と約束の確認を得た。「サタンが彼（ユダ）の中に入った」（ヨハネ 13 章 27 節）ユダ自身のメシア願望に絶望した心の闇（罪）に誘惑が入った。「イエスは悪魔から誘惑を受けるため、霊に導かれ…」（マタイ 4 章 1 節）。神の御旨で悪魔の誘惑が許され、主はメシアとしての試練に勝利された。以上から、苦難に遭う時、サタンは誘惑となるよう仕向けても、「神は真実な方」故、信じて憐れみを祈り、逃れる道が備えられていることを学ぶ。（E・S）